

伝達麻酔下陥入爪手術（アクリルネイル法）について

目的・効果

皮膚に陥入している変形した爪を除去し、除去した爪の部分にアクリル樹脂で作成した仮の爪を作成します。これにより新しく生えてくる爪や爪の周囲の皮膚が作成した爪の形に近い形になることが期待できます。

方法

局所麻酔薬を趾の根本に注射し、趾の感覚を麻痺させます（切除の範囲によっては行わない事もあります。）。その状態で皮膚に陥入している爪を除去します。その後仮の爪を作成する際の型になるプラスチックの薄い板を爪の端と下床に挿入します。その後有機溶媒にとかしたアクリルのゲルで仮の爪を作成し、固まったのちにプラスチックの型を外します。可能であれば作成した爪と元々の爪の接着を強固にするため、プラスチックの型を外した後に爪表面と爪裏面をアクリルのゲルで補強します。創傷があれば軟膏を塗ってガーゼで保護して終了になります。手術の前に感染症（梅毒、B型肝炎、C型肝炎、HIV）の有無などのチェックをするため血液の検査をします。処置後疼痛や二次感染の可能性がありますので、術後の状態に応じ抗生物質や鎮痛薬等の薬剤の処方を致します。感染を生じた場合には適切な処置を施行致します。入浴・飲酒・洗髪は医師の指示があるまで控えてください。なお当科で使用した薬剤が体に合わず、湿疹や体調の変化などを認めた場合は直ちに中止の上、ご連絡ください。

成功の可能性・後遺症など

この方法は爪の変形を確実に矯正できるものではなく、爪の根元の変形が強く効果に乏しい場合はフェノール法などの手術による加療が必要になる可能性があります。また、爪が伸びてくる途中でアクリル製の仮の爪が割れてしまった場合は、破片をできるだけ取り除いていただいたうえでご来院ください。伸びたアクリル製の仮の爪は通常の爪切りではうまく切れない事が多いですので、爪が伸びてきたらご来院ください。

可能性のある合併症

創部感染、血腫、爪の変形、爪郭の変形、アクリルネイルの脱落薬剤アレルギー（局所麻酔、抗生物質など）

考えられる他の治療法

ワイヤー法、テープ法、ガター法、フェノール法があり、それぞれに長所短所があります。

治療を受けないことによる考えられる結果

症状が進行する可能性があります。

費用

伝達麻酔下陥入爪手術（アクリルネイル法）は保険の適応はございません、この治療に伴う初診料、再診料及びそれ以外の投薬についても全て自費診療となります。

注意事項（備考）

術後：術部は安静、清潔を保ってください。

出血、疼痛の可能性があります。

出血時は多めのガーゼでしばらく圧迫してください。

疼痛時はまず痛み止めを内服してみてください。

上記対応で落ち着かない場合、または手術部位に痛みを伴う腫れや熱感などがありましたら早めに主治医に御連絡下さい